

Governor's Monthly Letter To Club Presidents and Secretaries

Rotary International District 2550



2006～2007年度
国際ロータリーのテーマ

率先しよう

RI会長 ウィリアム B. ボイド
ガバナー 落合 雅雄



太平山神社(栃木市)

CONTENTS

- p.1 落合ガバナーメッセージ
- p.3 地区活性委員長挨拶
- p.5 宇都宮文星なでしこIAC認証状伝達式を終えて
- p.6 長期青少年交換・宿泊オリエンテーション報告書
- p.7 インターアクト合同会議報告
- p.8 ガバナーノミネー確定宣言
- p.9 公式訪問だより
- p.11 ロータリー財団・米山記念奨学会表彰者
- p.12 地区主要行事予定／文庫通信
- p.13 2006年11月第2550地区会員増強、出席報告

今月のロータリーレート
1\$ = 118円

2007.1
No.7

1月：ロータリー理解推進月間

国際ロータリー第2550地区ガバナー事務所

〒328-0042 栃木県栃木市沼和田町12-15 平和ハイツ2F
TEL 0282-20-2020 FAX 0282-20-2025
E-mail:m2550@agate.plala.or.jp





新春のロータリー随想

国際ロータリー第2550地区
2006～2007年度ガバナー

落合雅雄
(栃木西RC)

ロータリアンおよびロータリー家族の皆様には、ご健勝にて新春をお迎えのことゝお慶び申し上げます。

昨年は、私の公式訪問の折、クラブの皆様から実に多くの貴重なご意見をいただきました。私が思った以上に、皆様はロータリーを愛し、ロータリーを率先して良くしようとされる強い意欲が直に伝わってきて、ロータリーに在るそれぞれの道が、未来に向って途切れることなく続いて行くであろうと確信できました。

当地区では、'06～'07年度からDLPを全面的に採用することにより、ガバナー補佐が充分管轄可能なクラブ数によって地区を10グループに再編いたしました。

さらに唐突に出現したCLPは、当初クラブに混乱を招くように思われましたが、従来のクラブ細則による固定された委員会の構成だったものから、クラブの実情に合わせより弾力的な構成が可能となりました。CLPを採用された29のクラブは、それぞれ試行錯誤を重ねながら真摯に取り組んでいただきました。CLPによって得られるクラブ目標に相応する組織の強化は、ロータリー新世紀にさらなる発展を求める試みであると思います。(CLPに関しては、重田RI理事がロータリーの友10月号に詳述されていますので参照下さい)

夙に公害博士として世界的に知られた私の畏友宇井純君が昨年11月に他界しました。永訣のとき、彼のライフワークだった水の保全と環境の保全の研究に共感し、啓発され、薫陶された人達の弔問引きも切らず、彼の業績は元より、大きな遺産は人だったことを知らされました。

東京大学という国立大学に在りながら、常に体制の矛盾を突き、正論を直言して憚らない彼の姿勢は、昇任の道が完全に閉ざされ工学部の万年助手として15年間に亘って市民を対象とした公開講座を続けました。その講義録は500頁におよぶ「公害原論」に纏められ、公害のバイブルとして活用されています。

生涯水俣病に係り、公害の元凶と対決し続けた彼は、「人生には自然を破壊したり、人々を苦しめたりしないで済むという選択をする機会が必ずある。もし人が生涯にたった一つでいゝ本当に良かれと思う選択をしてくれたなら、この社会はきっと変わる筈だと率先して勇気をもって実行して来た」男でした。

郷土の偉人田中正造翁の遺志が彼に引き継がれ、ふる里栃木の水と環境をこよなく愛した彼の跡を

継いだ有意の人材が渡良瀬遊水池も護っています。正造翁が生涯を賭した公害の原点「足尾」、その山の植樹運動に今ロータリーも（宇都宮西RCの提唱で）参加し、水と環境の保全について、ロータリー家族と共に学習を続けていることは周知のとおりです。

一方宇井君の願いに反して、今でも環境はさて置いて水で儲けようとする輩が自治体に群がる日本列島、60年も戦争をしていない世界でも希有な平和の国日本では絶対実感できない極限状態にいる人々が、地球上にまだ10億人以上いるといわれています。最も小さなペットボトル半分以下の水（1日分）を確保するのがやっとという人達です。自分が今このような所に生きていたら、真っ先にして欲しいことは何だろうと考えて見ましょう。

1960年代にベルギーの一家庭から始まってヨーロッパに拡がって行った「一杯のスプーン」と呼ばれた運動があります。毎日スプーン一杯分の水や主食の値段と思われる小銭を箱に入れて行く運動です。第二次大戦後の難民のための募金だったのです。

これよりはるか先の1936年日本のロータリーでは、大阪で社会奉仕の活動資金の募金箱としてスマイルボックスが発案され、現在全国のロータリークラブで必須の奉仕資金源となっています。ロータリアンの善意の発露であるこのボックスは、社会奉仕に活用するという当初の趣旨が不文律として伝承されているだけで、その管理運用に関して成文化された規程等は今日まで全く見られません。従ってその用途はクラブの裁量に委ねられ、一般会計に繰り入れることもできる筈です。しかし、ボックスへの投入金は、ロータリアンの個々の善意の対価であるから、会員の均等負担金である年会費で賄っているクラブの管理運営（一般会計）に使うことは、スマイルボックスの趣旨から逸脱すると共にロータリーの理念からも逸脱するように思われます。先輩達によって営々と培われて来た日本ロータリーの美しい伝統を大切にしていきたいものです。

一方米国では、年会費はわが国より一般に低額（食事代は含まれていません）で、かつ三大奉仕活動資金はその都度募金することが多いと聞いております。

当地区のクラブ年会費は、会費として約50回分が含まれているので高額になってしまうクラブが多いようです。次年度に向けてクラブ年会費を充分検討された上で見直しをお願いします。この事は、CLPに伴うクラブ活性化の重要課題と思っております。

途方もない奉仕と思われたポリオ撲滅運動もロータリアンの努力によって驚異的な成果を上げることができたことは同慶の至りです。これに係るロータリー財団の資金、当地区では今年度矢板RCの小口会員によってレベル4という超大口寄付をいただきました誌上を借りて厚く御礼申し上げます。および米山奨学会の資金（これも小口会員は当地区筆頭の米山功労者のメジャードナーです）の提供について「一杯のスプーン」そして「スマイルボックス」のフィロソフィーをご理解いただければ実行できると思います。お正月のお年玉として「一杯のスプーン」分の喜捨から始めましょう。

参考文献：犬養道子「こゝろの座標軸」



活性委員会より

地区活性委員長

鈴木 宏

(宇都宮北RC)

新春のお慶び申し上げます。新しい年が時を刻み始め、ロータリー年度も後半に入った訳であります。昨年11月5日(日)に次年度クラブ会長・村上肇地区活性諮問委員・近藤隆亮DGE・今年度および次年度ガバナー補佐の方々と共に地区活性委員会を開催いたしました。協議事項は、クラブ細則の見直しとCLPでした。また、11月25日(土)岡山で開催されましたロータリー研究会CLP分科会でのパネリストとして村上肇PDGが発表され、特別発言者として私が参加いたしました。その報告をさせていただきます。

「CLPは劇薬となりうる。」CLP分科会の後、他地区のガバナーから失敗したクラブの例をお聞きしました。それは何故か。クラブにて「ロータリー運動」について考えずに、組織構成のみの改正だけををした。これが原因となっているところが多く見られました。

ロータリーの目的は、唯一つ「Object of Rotary (綱領)」の推進です。そして、次年度のクラブ会長は、クラブ細則を見直し、委員会構成を考えていく訳です。その一つの手段として、CLPという考え方があることをRIは情報媒体機関として2004年11月に「推奨クラブ細則」の改正として提示したのです。この「推奨クラブ細則」では、委員会構成を各クラブが考えることになっています。このまま一字一句採用するわけにはいきません。各クラブがクラブ細則を見直す時考えるわけです。

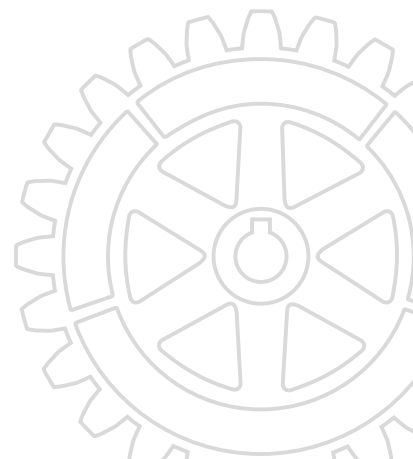
CLPは、私なりに解釈しますと、「CLPという変化を脅威ではなくチャンスと捉え、組織の基本(組織の使命・価値・成果)に係わるることについては、継続性を確立し、変化と継続の調和を必要とすることを理解し、クラブの自主性を尊重して、創立年数・会員数・地域差に係わらず、身の丈にあったクラブ運営と組織作りを基本として、ロータリー運動を理解し、前向きに取り組もう」ということではないかと思っております。従来のように形が固定されたものではなく、「ああした方が良く、いやこれは違う」とクラブ内で話し合っ、形を変えていき、そして、どのクラブにも無い「自分たちのクラブ」を作っていくこと、これがクラブの活性化に繋がっていくのではないかと理解しております。

また「効果的クラブの4つの要素」というのがあります。国際ロータリーの側から個々のロータリー・クラブを具体的に評価しようとした場合、ロータリー理念や哲学の理解レベルや思いやりの心の程度を客観的に評価することは出来ません。会員数の増減・財団への寄付額・具体的奉仕活動の対象や金額・地区やRIに貢献している人間の数などは明確に把握し評価することが可能です。そこでクラブの実情をいわゆる成果主義的にRI側から評価するための視点として登場したものと考えられます。ですから

ロータリー・クラブ存在の根本を根底から改めようと言うものでは元来ありません。その意味では「四大奉仕というロータリーの基本が葬られてしまった」などと騒ぐのは見当はずれなことだと言わなければならないでしょう。常任委員会に四大奉仕を入れるかどうかは各クラブの自由です。

ロータリーの目的は「思いやる心」を育成し、ロータリー・クラブの奉仕はロータリーの目的ではなくロータリアンを訓練する手段です。「思いやる」とは「親身になる」・「友情溢れる関係を作る」ことと思います。そしてコミュニティ・サービスとは「社会奉仕」の訳ではなく「良き市民たれ」と言うのが本筋です。判りやすくいえば自分の住んでいる街に対して、また 商売においても「親身になる」ことと思います。そして、一緒に励ましあい教えあう中から「親身になることの 喜びを味わえる人々の和」を広げていくこと、これがロータリー運動の中核を為すものではないかと思えます。ロータリー・クラブとは規模の大きさを誇るものでもなく小さいことを恥じることでもありません。ロータリー・クラブとは、その地域の中でどれだけの存在感を示せるのか、見える奉仕活動ではなく、地域社会に親身になり「良き市民」として人としての巨木たるロータリアンを如何に育てることが出来るか、それがロータリー・クラブだと思います。そのためにもCLPを機会にクラブの在り方をお考えいただけたら「クラブの活性」は十二分に為されるのではないかと思えます。

こんなジョークが巷に溢れております。沈没する船の船長が中々海に飛び込まない日本人に言いました「みんな飛び込みましたよ」日本人は全員慌てて飛び込んでしまうようです。CLPの採用は、各クラブで熟慮して採用を考えてください。そして「CLPは劇薬になりうる」このことを肝に銘じていただければと願います。





宇都宮文星なでしこ I A C 認証状伝達式を終えて

宇都宮文星女子高等学校校長

上 野 一 典

(宇都宮北RC)

去る2006年11月11日(日)に宇都宮文星女子高等学校に栃木県内12番目となるインターアクトクラブ(IAC)が正式に認証されました。宇都宮北ロータリークラブからの御提唱をいただき無事国際ロータリーから認証されたことはまことに感激に堪えません。また、私自身も宇都宮北ロータリークラブの今年度幹事の立場として発案の段階から参画させていただきました。また、多くの会員の方々が事前の準備から生徒と共に会場作りのお手伝いいただき心から感謝しております。時期的にも結婚式のシーズンであり会場の選定から問題がありましたが今となっては学校を会場としての手作りの認証状伝達式ができたと自負しております。宇都宮文星女子高等学校は、昭和4年に設立された商業系を中心とする学校です。現在は秀英特進科・普通科・総合ビジネス科の3つの学科と9つのコースから成っています。認証状伝達式にご参加いただいた皆様にお渡しした学園案内にもありますように「一、自己(おのれ)を敬え」「一、他人(ひと)を敬え」「一、仕事(こと)を敬え」の3つの敬の教え『三敬精神』を校訓とし職員・生徒は日々の生活の中でこれを実践しています。この『三敬精神』は、まさにロータリー精神と相通ずるものがあると私はロータリー入会時から感じていました。それが職員・生徒にもすんなりと受け入れられた理由かもしれません。

本校ではここ数年生徒たちの意識に変化が現われ、郊外でのボランティア活動などで活躍する生徒が数多くいます。また、2年前からは新たなコースとして介護福祉コース・子供福祉コース・ケアコミュニケーションコースといったボランティアと直接かかわるコースができ、IAC設立のお話はまさに学校としてはタイムリーで願っても無いものでした。6月に行われた趣旨説明会には60名を越える生徒が参加し最終的には41名の生徒がIACの趣旨に賛同し初代会員となりました。8月に行われるIACの総会で他の先輩クラブの皆様に出会えることを楽しみに、またそれまでに恥ずかしくない活動をと宇都宮北ロータリークラブの会員の皆様の御協力いただきながら邁進してまいりました。第一回会報に載せましたようにこれまでに、障害者の全国スポーツ大会のお手伝い、盲導犬センターでのボランティア活動、菜の花の種まき等に参加してきました。まだまだ、先輩IACの活動には遠く及びませんが、初代会長の高田瑛理を中心に「やる気」と「まとまり」はだけはあると思います。

ただIACは設立された後の活動とその維持が大変であるといわれます。学校とロータリークラブの連携、そして活動費用の問題等で廃止となったクラブもあると聞いております。私自身も宇都宮北ロータリークラブのメンバーであると同時に学校のトップとして「宇都宮文星なでしこIAC」の活動を暖かく見守っていきたいと思います。宇都宮北ロータリークラブのロータリアンの皆様、そして先輩IACのインターアクターの皆様の御指導をいただき、息の長いIAC活動ができるように学校一丸となって頑張っていきたいと思っております。





“世界を前進させる力” 長期青少年交換・宿泊オリエンテーション

2550地区青少年交換委員

松 葉 悠 子

(足利東RC)

恒例となりました宿泊オリエンテーションが、11月4日(土)・5日(日)の2日間に亘り、佐野市「あきやま学寮」で開催されました。この合宿は、次年度青少年交換学生として1年間海外派遣が内定されている8名の学生、現在当地区で受入れ滞在中の海外からの8名の学生、外国から帰国したばかりの学生を含む10名の帰国学生、派遣が内定した日本学生の保護者8名そして奉仕プロジェクト委員長・青少年交換委員合計41名が参加して行われました。

研修に先立ち、関谷奉仕プロジェクト委員長から「立派な親善大使となるためのオリエンテーションですから、しっかり勉強して行って下さい。」と挨拶があり、続いて瀬野青少年交換委員長が「希望派遣国を決定する重要な機会です。来日学生、帰国学生、先輩の話をよく聞いてそれぞれの国の良さを理解して下さい。そして何処の国に決定されても、この派遣が皆さんの努力で有意義なものとなるよう望んでおります。」と話しました。その後、派遣内定学生が英語でスピーチ、そして来日学生が日本での生活を、日本語で堂々と流暢に話す姿に日本学生は派遣国での自分の姿を重ねて、感慨深い様子でした。その後各分科会に分かれ来日学生は日本語テストとカウンセリング、派遣内定者は交換学生としての心構えやロータリーについて研修し、このプログラムに対する理解を深めました。また、最終派遣国を決めるための国別ガイダンスでは、来日及び帰国学生の説明に熱心に耳を傾け、最初のイメージとは大きく見方が変わった学生も見受けられました。保護者の皆さんには留学に向けての注意点などのオリエンテーションが行われ、夕食後は全員参加してゲーム等を楽しみ、部屋ではお互いに英語や日本語で大いに交流しました。あきやま学寮での2日間は、忘れられない思い出となることでしょう。

2日目は、午前7時起床、ラジオ体操、清々しい朝の散策、そして朝食後にパネルディスカッションによる2回目の国別ガイダンス、同時に保護者同伴の個別面談を行い、予定通り昼までには、内容の濃い2日間に亘るすべてのスケジュールを終了、最後に全員で記念撮影し散会しました。





インターアクト合同会議報告

インターアクト委員会委員長

岡 川 光 佑

(宇都宮西RC)

平成18年11月17日(金)宇都宮グランドホテルに於いてインターアクト顧問の教師9名、ロータリークラブの関係者9名の出席を得て合同会議が開催された。

最初に新しく発足した宇都宮文星なでしこインターアクトの提唱クラブ宇都宮北RCの佐伯秀利会長の挨拶があり地区内のインターアクトクラブの数は12校になった。

次に海外研修については委員長よりRIの現況について、大きな問題に成っている旨の報告があった。即ちオーストラリアに於いて不祥事が発生し、RIが莫大な損害賠償を受けたことにより、RIとして国際交流のあり方について厳しい規制をしてきました。

その内容は青少年交換、インターアクト、ライラ等が対象となり、クラブ相互の交流に際してはRIの承認を得ること、現実には危機管理委員会を設置し、「危機管理対策」をRIから承認を受け、それに基づいて国際交流を実施するものです。目下全国的な規模で検討中であり、'06年6月30日までに承認を受けない場合には次年度から国際交流は出来ないこととなります。

今年度の反省事項としては国際交流が不十分であった旨の指摘がありました。

3番目には矢板RCよりインターアクト年次大会についての結果報告があり、引き続き次年度のホスト校として足利工業大学附属高校(足利東RC提唱)であることを確認しました。

4番目は足尾の植樹について平成19年4月22日(日)に行われるが、基本的にはクラブ主導でインターアクターに参加させ、クラブが不参加の時には地区のインターアクト委員会が引率することを約した。

最後に各校のインターアクトクラブの活動報告がありお互いの参考にすべき情報交換が行われた。

特記すべき報告内容は、①11月22日～26日 足利東RCのWCSにインターアクター10名が参加してフィリピンに於いて活動 ②12月9日～16日 栃木工業高校インターアクターを中心に20名関係者5名にて車椅子の修理活動をタイにて実施 ③12月5日 宇都宮90RCが「片栗の里の整備事業」を実施するので塩谷高校インターアクターの支援を依頼 ④19年2月3日 宇都宮大学に於いて「TOCHIGI国際協力フォーラム」が開催されるので参加されたい。



ガバナーノミニー確定宣言

ガバナー 落合 雅 雄

2008～09年度ガバナーノミニー候補者の推薦を、2005～06年度ガバナー月信第10号で公示いたしましたが、2006年6月1日の締め切りまでに候補者の推薦はありませんでした。地区ガバナー指名委員会は、R I細則13条20節により宇都宮東ロータリークラブ会員 羽石光臣君を指名いたしました。よって羽石光臣君を「2008～09年度地区ガバナーノミニー」として正式に確定いたしましたことをここに宣言いたします。



氏 名：羽 石 光 臣 (はねいしみつおみ) (男)
所 属：宇都宮東ロータリー・クラブ
生年月日：1942年 8 月27日
出 生 地：台湾 高雄市
現 住 所：〒320-0053 栃木県宇都宮市戸祭町2767
T E L (028) 622-9078 F A X (028) 622-9078
夫 人 名：和 子

(学歴略歴)

1958年 宇都宮大学学芸学部附属中学校卒業
1965年 自由学園最上学部卒業

(職歴略歴)

1965年 株式会社ヤマト科学入社
1966年 株式会社ローラン入社
1972年 株式会社ローラン代表取締役就任
2003年 株式会社ローラン代表取締役会長就任

(ロータリー歴)

—宇都宮東ロータリー・クラブ—
1979年 宇都宮東ロータリー・クラブ入会
1997年 宇都宮東ロータリー・クラブ幹事
2001年 宇都宮東ロータリー・クラブ会長
2002～2003年 新世代委員会・ローターアクト委員会委員
2003～2004年 新世代委員会・ローターアクト委員会委員
2005～2006年 第3分区ガバナー補佐
M.PHF, 米山功労者

(団体略歴)

1979年 東部一倉社長会入会

国際ロータリー第2550地区 2009～2010年度

ガバナーノミニー候補者推薦について

ガバナー 落合 雅 雄

国際ロータリー細則第13条ガバナー指名と選挙の定めに従い、国際ロータリー第2550地区2009～2010年度ガバナーノミニーを指名するため、貴ロータリークラブより適任者を下記によりご推薦くださいますようお願い申し上げます。
推薦については、手続要覧の国際ロータリー細則13条及び15条を参照の上、下記事項を提出下さい。

記

氏 名 _____ 所属クラブ _____

生年月日 _____ ロータリー歴 _____

推薦締切日 **2007年3月1日(木)**

提出先 **落合ガバナー事務所**

ガバナー指名委員会 委員長 佐野 正行

日光・今市RC 10月25日(水)

会場 日光 金谷ホテル

第7グループ・ガバナー補佐 石川 昭 男

秋晴のなか、例幣使街道を北上し公式訪問会場の金谷ホテルに向かいました。大谷川沿紅葉やホテルの庭の紅葉を楽しみに公式訪問の予定を組みましたが、幾分早いようでした。ホテル玄関先では、日光RC会長加藤四郎様幹事野本晃也様、また今市RC会長田村辰巳様幹事五月女久和様を始め、両クラブの多くの会員が出迎えてくれました。嬉しいことはこれだけでなく、日光RC井上楨子様、ガバナーを迎えるが如くホテルの庭で、ツツジの白い花が咲いたことを話してくださいました。



日光・今市RC

ホテルの会議室で日光ロータリークラブの加藤様からクラブの現況について話を伺いました。地区内クラブでは唯一、名誉会員の資格について明記ありました。在籍30年以上、ポールハリスフェローであることが条件で、名誉会員が安易に名誉職と考えてないことに数年後に創立50年を迎えるクラブの伝統を実感しました。クラブの運営に関してや、対外的に活動する奉仕活動についても、十分検討された事業計画を立案し実行されていました。国際RC大阪大会の時は、外国のロータリアンが多数クラブに訪問したと聞き、日光ロータリークラブの特権ではないかと感心しました。

次に、今市ロータリークラブの田村様からクラブの話を知りました。後で田村会長がクラブに入会して3年目で、会長を引き受けた事には驚きました。クラブの現況について淡々と話をされる様子からは、入会3年目とはとても感じられませんでした。乗馬クラブを運営している会長は、子供が動物とふれ合うことは育つ課程で大切と思っており、小動物以外はふれ合いが少ない園児にその機会を与えようと、奉仕活動「ポニーと遊ぼう」を取り入れて、すでに実行しました。今後も市内の多くの幼稚園・保育園などで実施をする予定と話していました。

ホテルのダイニングで合同公式訪問例会は、加藤会長の歓迎の言葉で始まり、約50分かゆっくりコース料理を堪能してから、私の挨拶が終了すると田村会長のお礼の言葉で終了する演出した楽しいものでした。

日光・今市クラブとも歴史があり伝統に裏付けられた運営をしていましたので、年を重ねるごとにグループ内の模範になるクラブと確信しました。

宇都宮陽北RC 11月7日(火)

会場 ヴェルヴィ宇都宮

第3グループA・ガバナー補佐 伊 東 永 峯

例会場入口で二列に並んだ会員の歓迎に満ちた温かな拍手に迎えられ、第3グループA最後の公式訪問が始まりました。

阿久津会長の歓迎挨拶、幹事報告に続いてのガバナー卓話では、阿久津会長の本年度スローガン「例会への出席を



宇都宮陽北RC

基本とし、知人から友人へ」について触れられ、本来のロータリアンとしてあるべき姿ではないかと、高く評価されました。

その後、少人数クラブのクラブ運営とクラブ強化を目的にCLPが導入された経緯を具体的な事例を交え分かりやすく話されました。また、退会防止について話され、退会理由の第一に挙げられるのは、活動する場所がないこと、それを防止するには、クラブ組織を

日光・今市R C 10月25日(水)

会場 日光 金谷ホテル

第5グループ・ガバナー補佐 吉光寺 俊 夫

秋晴のなか、例幣使街道を北上し公式訪問会場の金谷ホテルに向かいました。大谷川沿紅葉やホテルの庭の紅葉を楽しみに公式訪問の予定を組みましたが、幾分早いようでした。ホテル玄関先では、日光R C会長加藤四郎様幹事野本晃也様、また今市R C会長田村辰巳様幹事五月女久和様を始め、両クラブの多くの会員が出迎えてくれました。嬉しいことはこれだけでなく、日光R C井上楨子様、ガバナーを迎えるが如くホテルの庭で、ツツジの白い花が咲いたことを話してくださいました。



日光・今市R C

ホテルの会議室で日光ロータリークラブの加藤様からクラブの現況について話を伺いました。地区内クラブでは唯一、名誉会員の資格について明記がありました。在籍30年以上、ポールハリスフェローであることが条件で、名誉会員が安易に名誉職と考えてないことに数年後に創立50年を迎えるクラブの伝統を実感しました。クラブの運営に関してや、対外的に活動する奉仕活動についても、十分検討された事業計画を立案し実行されていました。国際R C大阪大会の時は、外国のロータリアンが多数クラブに訪問したと聞き、日光ロータリークラブの特権ではないかと感心しました。

次に、今市ロータリークラブの田村様からクラブの話を知りました。後で田村会長がクラブに入会して3年目で、会長を引き受けた事には驚きました。クラブの現況について淡々と話をされる様子からは、入会3年目とはとても感じられませんでした。乗馬クラブを運営している会長は、子供が動物とふれ合うことは育つ課程で大切と思っており、小動物以外はふれ合いが少ない園児にその機会を与えようと、奉仕活動「ポニーと遊ぼう」を取り入れて、すでに実行しました。今後も市内の多くの幼稚園・保育園などで実施をする予定と話していました。

ホテルのダイニングで合同公式訪問例会は、加藤会長の歓迎の言葉で始まり、約50分かきゆっくりコース料理を堪能してから、私の挨拶が終了すると田村会長のお礼の言葉で終了する演出した楽しいものでした。

日光・今市クラブとも歴史があり伝統に裏付けられた運営をしていましたので、年を重ねるごとにグループ内の模範になるクラブと確信しました。

宇都宮陽北R C 11月7日(火)

会場 ヴェルヴィ宇都宮

第3グループA・ガバナー補佐 伊 東 永 峯

例会場入口で二列に並んだ会員の歓迎に満ちた温かな拍手に迎えられ、第3グループA最後の公式訪問が始まりました。

阿久津会長の歓迎挨拶、幹事報告に続いてのガバナー卓話では、阿久津会長の本年度スローガン「例会への出席を



宇都宮陽北R C

基本とし、知人から友人へ」について触れられ、本来のロータリアンとしてあるべき姿ではないかと、高く評価されました。

その後、少人数クラブのクラブ運営とクラブ強化を目的にCLPが導入された経緯を具体的な事例を交え分かりやすく話されました。また、退会防止について話され、退会理由の第一に挙げられるのは、活動する場所がないこと、それを防止するには、クラブ組織を



変え会員の参加意識を高めるため、委員会を開催して交流を深めていくことが退会防止に繋がる。そして、ロータリアン一人一人質を高めることも大切、栃木県には二宮尊徳翁の「私利私欲に走らず社会に還元する」という教えを心に置き、日本的伝統を大切に日本人として誇りを持って欲しい、人から尊敬される人に人は寄ってくる。質を高めて量を増やす努力も忘れないでくださいと卓話を結ばれました。

引き続き行われた炉辺会合では、・新入会員をどのように会に馴染ませるか。・会員減少に伴い、地区への登録料などの軽減は出来ないか。・ガバナーにとってロータリークラブに入ってよかったことは何か。などの質問があり、それぞれ丁寧に答えられました。特に、地区大会の登録料については検討中であるとの説明がありました。

最後に、ガバナー自身、医師として「心に思いやりの心を」を方針として、多くの人と接してきたことから、副題の「行動に思いやりの心を」付け加えたと、熱く話されました。

大変内容の濃い、有意義な宇都宮陽北ロータリークラブの公式訪問は無事終了いたしました。

ロータリー財団

(2006.11)

矢板 R C 小口美好 大口寄付 レベル4 (10万ドル)

今市きぬ R C 澁谷正仁 恒久基金 (2,000ドル)

足利わたらせ R C 源田晃澄 M. P. H. F (1)

米山記念奨学会

(2006.11.1~2006.11.30)

〈米山功労クラブ〉

今市 R C

栃木 R C

宇都宮 90 R C

矢板 R C

〈米山功労者〉※2以上はマルチプル、10以上はメジャードナー

足利 R C 中村勝栄 (10)、

足利わたらせ R C 木村泰三 (4)、 志賀一夫 (1)、

今市 R C 青木秀明 (1)、 青柳 隆 (2)、 石塚 満 (1)、 小栗 理 (4)、 提箸一文 (2)、
瀧 千秋 (1)、

真岡西 R C 浜野芳朗 (1)、 小幡邦重 (1)、 田上富美子 (1)、

大田原 R C 井上成紀 (10)、 黒田俊雄 (5)、

しもつけ R C 公文初江 (1)、 仁平秀丈 (4)、

栃木 R C 阿部光佑 (4)、 峯岸 昭 (16)、 若林芳明 (2)、

栃木西 R C 落合藤市 (3)、 高瀬時康 (3)、

宇都宮東 R C 太城敏之 (1)、

宇都宮90 R C 卯木伸男 (1)、

宇都宮西 R C 稲木義友 (4)、 伊東永峰 (8)、 森田善雄 (9)、 岡川光佑 (9)、

宇都宮陽南 R C 長谷川雅代 (2)、 増淵義利 (1)、 中島忠男 (1)、

矢板 R C 阿久津潤子 (5)、 小堀幸栄 (8)、 小口美好 (54)、 村上守敏 (1)、 小野崎隆道 (4)、
八板 誠 (8)、

2006～2007年度 地区主要行事予定

2007年

 地区外行事

月	日	曜日	行 事	場 所	
1	8日	月(祝)	第2回 会長・幹事会	宇都宮	宇都宮グランドホテル
	20日	土	地区米山記念奨学生選考試験	宇都宮	ニューイタヤホテル
	21日	日	第4回 諮問委員会	宇都宮	宇都宮グランドホテル
	28-3日	日-土	国際協議会	米 国	サンディエゴ
2	10日	土	第8グループIM	足 利	足利プリオパレス
	17日	土	宇都宮南ロータリークラブ20周年記念式典	宇都宮	ニューイタヤホテル
	24日	土	宇都宮西ロータリークラブ45周年記念式典	宇都宮	宇都宮グランドホテル
	25日	日	第5グループIM	小 山	
3	4日	日	第5回 諮問委員会(帰朝報告会)	宇都宮	
	11日	日	2007-2008年度 地区チーム研修セミナー	宇都宮	作新学院大学
	25日	日	2007-2008年度 会長エレクト研修セミナー	宇都宮	作新学院大学
	24-25日	土-日	高校生ライラセミナー	鹿 沼	ウェルサンピア栃木


文庫通信(231号)

ROTARY INTERNATIONAL DISTRICT 2550

このたびは昨年度の会計報告をさせていただきます。今度ともロータリー文庫をご活用くださるようお願い致します。

ロータリー文庫 2005～2006年度会計報告

(貸借対照表)

資 産		負 債	
現 金	23,788	雇用保険料預り金	10,700
普通預金	2,773,411	社会保険料預り金	175,690
定期預金	10,000,000	未払金	1,348,095
		負債合計	1,534,485
		正味財産	
現預金合計	12,797,199	次期繰越剰余金	11,262,714
合 計	12,797,199	合 計	12,797,199

(収支計算書)

収 入		支 出	
会費収入	30,144,150	委員会費	2,290,407
雑収入	1,426,295	業 務 費	2,556,494
		貸借管理費	10,209,722
		人 件 費	16,397,433
		予 備 費	3,771,810
当期合計	31,570,445	当期合計	35,225,866
前期繰越収支差額	14,918,135	当期収支差額	△ 3,655,421
収入合計	46,488,580	次期繰越収支差額	11,262,714


ロータリー文庫

〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-15 黒龍芝公園ビル3F

TEL (03)3433-6456 FAX (03)3459-7506 <http://www.rotary-bunko.gr.jp>

開館=午前10時～午後5時 休館=土・日・祝祭日

国際ロータリー第2550地区11月会員増強・出席報告

分区	クラブ名	出席率			会 員 数							
		例会数	今月	平均	7月1日	今月	入会	退会	通算増	通算減	増減	内女性会員
第一グループ	大田原	4	96.50	91.75	47	49	0	0	4	2	2	1
	黒磯	4	97.00	98.40	44	44	0	1	2	2	0	2
	西那須野	4	100.00	96.59	49	51	0	0	2	0	2	0
	黒羽	3	96.97	94.71	22	22	0	0	0	0	0	0
	那須	4	78.10	85.01	24	26	1	0	3	1	2	2
	塩原	4	76.90	77.23	13	12	0	0	0	1	-1	0
	大田原中央	5	88.00	78.12	21	21	0	0	0	0	0	0
第二グループ	烏山	4	94.11	92.94	17	17	0	0	0	0	0	1
	氏家	4	78.12	83.29	36	36	0	0	0	0	0	0
	矢板	4	84.82	88.15	38	38	0	0	0	0	0	6
	馬頭小川	4	91.20	90.84	23	23	0	0	0	0	0	0
第三グループA	高根沢	4	76.46	83.31	17	17	0	0	0	0	0	1
	宇都宮	4	70.80	73.50	101	105	1	0	6	2	4	0
	宇都宮西	4	96.50	92.28	60	62	1	0	4	2	2	0
	宇都宮北	4	81.55	77.06	57	57	0	0	0	0	0	0
	宇都宮90	4	90.00	88.20	44	45	1	0	2	1	1	5
第三グループB	宇都宮陽北	4	72.30	79.00	35	35	0	0	0	0	0	6
	宇都宮東	4	91.89	92.69	104	106	0	0	2	0	2	0
	宇都宮南	5	80.87	80.36	49	51	0	0	2	0	2	0
	宇都宮陽東	5	85.47	84.91	41	43	0	0	2	0	2	1
第四グループ	宇都宮陽南	4	93.10	89.68	19	19	0	0	0	0	0	4
	真岡	5	77.72	82.66	40	42	0	0	3	1	2	0
	益子	5	87.20	90.26	44	44	0	0	0	0	0	0
	真岡西	4	87.78	91.43	45	46	0	0	1	0	1	8
第五グループ	しもつけ	5	86.00	87.45	29	30	0	0	1	0	1	8
	小山	4	82.00	88.94	47	50	0	0	3	0	3	0
	小山南	4	92.90	95.90	20	22	1	0	2	0	2	1
	小山東	3	92.06	91.58	42	42	0	0	0	0	0	0
	小山北	5	72.25	79.98	29	32	0	0	3	0	3	0
第六グループ	小山中央	3	70.00	74.80	27	27	0	0	0	0	0	1
	栃木	5	77.00	74.93	55	55	0	0	1	1	0	0
	栃木西	4	86.38	85.17	43	44	0	0	1	0	1	2
	壬生	5	92.00	92.00	19	20	0	0	1	0	1	2
第七グループ	栃木南	4	82.30	84.51	36	35	0	1	0	1	-1	4
	日光	4	59.52	78.28	31	31	0	0	0	0	0	3
	鹿沼	4	91.21	89.68	70	74	1	0	4	0	4	1
	今市	5	91.74	90.85	46	46	0	0	0	0	0	0
	鹿沼東	5	92.79	91.12	47	48	1	0	1	0	1	2
	粟野西方	4	92.63	96.76	17	17	0	0	0	0	0	1
	鹿沼中央	4	96.67	88.78	31	31	0	0	0	0	0	1
今市きぬ	3	90.00	92.50	30	30	0	0	0	0	0	1	
第八グループ	足利	3	78.00	82.93	49	50	0	0	2	1	1	0
	足利東	4	72.95	79.14	61	62	0	0	1	0	1	7
	足利西	4	76.65	77.13	15	15	0	0	0	0	0	0
	足利わたらせ	4	89.80	94.29	26	28	0	0	2	0	2	0
第九グループ	佐野	4	87.50	89.49	59	60	0	0	2	1	1	0
	葛生	4	85.80	88.62	36	37	0	0	1	0	1	0
	田沼	4	91.46	93.86	40	41	0	0	2	1	1	0
	佐野東	4	78.96	83.50	23	24	0	0	1	0	1	0
	岩舟	4	80.00	78.33	30	30	0	0	0	0	0	1
50RC			85.24	86.66	1948	1992	7	2	61	17	44	72

あけましておめでとうございます

新春を迎え会員各位のご多幸と貴クラブの発展をご祈念申し上げます

本年も何卒よろしくご支援ご協力の程お願い申し上げます

2007年元旦　　ガバナー月信編集委員会一同

